

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立平田幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・昨年度教育課程を見直した今年度版の教育課程を表にして貼り「見える化」し、保育者はその都度指標にして保育に取り組んでいる。毎月の指導計画を立てる際や、2か月に1回の研究職員会議で子どもの姿や育ちから評価し、目指す子ども像に向かってより良く改善できるような工夫を具体的に行うことができた。	4	4	・毎年、教育課程を見直すことで、園のめざす子ども像やその実現のための目標や具体的な方策を職員で共有し、同じようなイメージで子どもの教育を推進できるようにする。 ※教育課程の表は、平田幼稚園の教育が具体的に示してありわかりやすい ※この表を使って学級懇談をされたと聞き、保護者と共有され良いことだと思う
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・担任は、記録「みつけ・シート」を記入することで、一人一人の育ちや課題を明確にしながら日々の保育にあたっている。また、折に触れ気軽に子どもの話をしたり、保育を他クラスの職員に見てもらったりすることで、多面的・客観的な子どもの見方や援助ができるよう心掛けた。	4	4	・継続して記録の取り方を工夫し、職員同士で共有したり、保育を見合ったりすることで、一人一人を多面的・客観的に見て幼児理解に努める。また、子どもの成長の姿をわかりやすく保護者に伝え共有していくことで、園と家庭とが共に子どもを育てるという良好な関係作りを心がける。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・特別な支援を要する幼児が、友達との生活を楽しみながら、自分らしく過ごせるような学級経営を心がけている。必要に応じて、支援ファイルや個別の指導計画を作成し、個の課題と集団での関わりにおいてよりよく伸びるよう、担任と補助教諭との連携をスムーズにしていくよう努めている。	3	3	・特別な支援を要する幼児へのかかわりは、その時々や関係性で違うので、職員同士が連携を図ったり、巡回指導でのアドバイスや研修等で職員のスキルアップをしたりして、最善の援助を模索していく。 ・コロナ禍ではあったがケース会議も持つことができたので、継続していく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・教職員は、年1回以上人権・同和教育研修会に参加し、自らの人権感覚を磨く努力をしている。 ・互いを認め合える学級づくりを目指し、十分に思いを出し合える中から育つ「優しさ」「認め合い」を大切にしている。コロナ禍でのコミュニケーション不足（人との触れ合い）が課題である。	3	3	・幼児を一人の人間として尊重し、その存在そのものを愛おしく大切に思う気持ちを常に持つことが大事だと思う。教師の言動が子ども達に大きな影響を与えるということを常に自覚し、教師自らの人権感覚を磨く努力をしていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・今年度は、感染症対策を講じながら、行事を全園児で行ったり、保護者参加を可能にしたりした。そのためには事前に「何が大事で何を体験させたいのか」「どこを気をつければよいのか」を徹底的に話し合った。PTA主催の「まつり」もしっかり話し合うことで全園児・全親子参加で賑やかに行うことができた。園外保育も数多く行った。こうした園の取り組みが保護者の高い評価となって表われたのではないと思う。	4	4	・この行事で何を体験させ、どう育ってほしいのかを明確にし、「できない」ではなく「どう工夫したらできるか」を常に考え、幼児にとって楽しく成長につながる行事の在り方を工夫していく。 ※子どもにとって、成長につながる楽しい行事を工夫されている。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・今年度もコロナ禍で、幼児と児童の触れ合い体験はできず、残念だった。その分、職員同士がしっかり話し合うことで次につなげられるようにしたい。 ・小学校の授業を見学したり、保育を小学校から見に来てもらう機会をもつことができた。今後は、事後の話し合いをもてるよう引き続き計画していきたい。	3	3	・平田中学校区連携推進委員会でのつながりを大切に、共に「平田の子を育てる」という意識で、育ちや学びの連続性について話し合っていくたい。 ・来年度も、授業や保育を見合って話し合う機会を計画していくと良い。 ※コロナ禍という仕方のない状況の中で、できる範囲のことはされていると思う。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・保護者会や個人懇談、降園時を利用して、一人一人の育ちや課題などについて話し合う機会が設けられたと思う。また、PTA活動において保護者の方としっかり話し合いができ活動の充実につなげられた。アンケートでも園と保護者の協力関係ができていることに高評価をいただいており、家庭との連携がしっかりできたのではないと思う。	4	4	・子どものより良い育ちのために、その時々で最良の連携や話し合いをもちながら、今後も信頼関係の構築を図っていく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・過去2年間のように研究発表はあたっていなかったが、これまでの研究を続けて実践した。職員一人一人が高い意識をもって園内研究や保育に取り組むことができたと思う。 ・園外の研究・研修会にも積極的に参加し、自己研鑽に励んだ。	4	4	・これまで積み重ねてきた研究を継続し、子どものより良い育ちを支えるために「今後経験させたいこと」「そのための教師の援助」等について、今後も職員で話し合い研鑽を重ねていきたい。 ※とても熱心に一生懸命取り組んでおられると思う。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・年度当初に決めた園務分掌に従って、担当者が早めの起案をし決定事項を全教職員に文書配布するので、みんなが共通理解をして園務や園行事にあたることができている。	4	4	・翌日の保育準備、園務分掌の仕事だけでも大変だが、日々いろいろな仕事が入ってきて、職員人数のわりに仕事が多い。仕事に優先順位をつけたら、事務のスリム化を図ったりして、ゆとりをもった仕事への取り組み方を工夫したい。 ※正規職員が少なく、先生方一人一人の負担が大きいと感じた。もっと教育に予算を当てていくことが必要ではないか。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・毎学期、火災や地震、不審者等を想定した避難訓練を行い、マメールを活用した保護者への引き渡し訓練も軌道にのってきた。今年度は、不審者対応を事前に園児・職員に知らせなかったり、3学期に自由遊びの中での火災避難訓練を行ったりし、訓練のための訓練ではなく、臨機応変に動ける対応力を身に付ける訓練を行った。	3	3	・今後もいろいろな状況を想定した避難訓練を行い、職員の危機管理意識を高めたり、臨機応変な対応力を身に付けたりしていく。 ・衛生管理など、感染症対策を今後も徹底していく。 ※臨機応変な対応力を身に付けるための訓練は、とても良いことだと思う。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月、安全点検の日を決めて複数の目で園舎内外や遊具などを点検し、異常があればすぐ対応し、安全管理に努めた。 ・園舎の老朽化と広範囲な草刈り作業など、施設管理の課題は多い。今年度はPTAの他に運営協議会の皆さんや地域の方に草刈りをしていただいたが、引き続き市に要望していく必要性を感じている。	3	3	・定期的な安全点検はもちろん、日々の「ヒヤリハット」などがあれば職員で共有し、必要な改善を行って、職員の安全意識の向上を図る。 ・園舎内外の必要な宮繕・修繕は、引き続き市へ要望していく。 ※子ども達が安全に生活し、保護者が安心して預けられる園の環境を整えるために、必要な予算要求や要望を続ける必要がある。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する

※印は、運営協議会で出た意見